



SPARC Enterprise™ M3000サーバ プロダクトノート

XCP 1093 版

Copyright © 2010 オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社 All rights reserved.

オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、オラクル社および富士通株式会社の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者からオラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。オラクル社および / またはその関連会社、および富士通株式会社にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Oracle と Java は、オラクル社および / またはその関連会社の登録商標です

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、オラクル社および / またはその関連会社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。その他の名称は、それぞれ各社の商標です。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Oracle and/or its affiliates and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.



免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関してオラクル社、富士通株式会社および / またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、オラクル社、富士通株式会社および / またはそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、オラクル社、富士通株式会社および / またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもとの第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。

目次

はじめに	ix
SPARC Enterprise M3000 サーバのサポートについて	ix
技術サポート	ix
ソフトウェアリソース	x
マニュアルへのアクセス	x
ご意見をお寄せください	xi
XCP 1093 に関する一般的な情報	1
サポートされるファームウェアおよびソフトウェア	1
Solarisパッチに関する情報	2
Solaris 10 5/08用パッチ	2
Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ	3
XCP 1093へのアップデート	3
XSCFファームウェアのリセット	3
機能の問題と制限	3
Active Directoryに関する留意点	3
LDAP/SSLに関する留意点	4
電力モニタ機能およびエアフローインディケーターに関する留意点	4
NTPサーバに関する留意点	4
NTPサーバがローカルクロックを参照している場合の留意点	4

XSCF Webに関する留意点	6
一般的な機能の問題と制限	7
ハードウェアに関する情報	9
200V電源を使用する場合の注意事項	9
DVDドライブ／ディスクの使用について	9
CD-RW/DVD-RWドライブユニット	10
USBメモリの使用について	10
電源制御とオペレーターパネルのモードスイッチについて	11
ハードウェアマニュアルの変更予定	12
『SPARC Enterprise M3000 サーバ 設置計画マニュアル』の変更予定	13
電氣的仕様	13
UPSコントローラー（UPC）の分岐接続	14
接続できる場合	14
接続できない場合	16
ソフトウェアに関する情報	17
Active DirectoryとLDAP/SSL	17
Active DirectoryをサポートするためのXSCFの設定	19
LDAP/SSLをサポートするためのXSCFの設定	19
ユーザーアカウント名とUIDに関する留意点	20
新しいシステムアカウントproxyuser	20
XCPに関する問題と回避方法	20
XCP 1093で発生しうる問題	20
XCP 1093で解決された問題	22
XCP 1093以前で解決された問題	22
Solaris OSに関する問題と回避方法	28
すべてのバージョンのSolaris OSに関連する問題	28
Solaris 10 10/09で解決された問題	31

Solaris 10 5/09で解決された問題	31
Solaris 10 10/08で解決された問題	32
ソフトウェアマニュアルの変更予定	34
システム内の縮退メモリの識別	35

はじめに

本書では、SPARC Enterprise M3000 サーバ、ソフトウェア、および出版後に見つかったドキュメントに関する最新の情報を説明します。

注 – 本書に対応したXCP版数より新しいXCPがリリースされている場合、最新のXCP版数に対応するマニュアルでのみ記載内容が更新されます。本書とともに、以下のウェブサイトで最新のXCP版数に対応するマニュアルを参照して、記載内容や使用方法など、ご使用のXCP版数に関連したマニュアルの訂正がないかご確認ください。

日本語サイト

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

SPARC Enterprise M3000 サーバのサポートについて

技術サポート

SPARC Enterprise M3000 サーバのドキュメントで取り上げられていない技術上の問題または質問がありましたら、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise M3000 サーバにはSolarisオペレーティングシステム (OS) および Sun Java Enterprise System softwareがプレインストールされています。

SPARC Enterprise M3000 サーバのソフトウェアリソースについては、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

注 – 最新のパッチ情報は以下を参照してください。

日本語サイト

<https://software.fujitsu.com/jp/security/products-others/unix/>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/global/support/software/security/products-s/patch-info/>

インストールに関する情報とREADMEファイルもパッチと一緒にダウンロードされます。

マニュアルへのアクセス

注 – 本書で説明する情報は、SPARC Enterprise M3000 サーバのマニュアルセットの情報よりも優先されます。

SPARC Enterprise M3000 サーバのインストレーション、管理、使用のための手順は、SPARC Enterprise M3000 サーバのマニュアルセットに示されています。マニュアルセットは、以下のウェブサイトからダウンロード可能です。

日本語サイト

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

Oracle Solaris OSなどのSun Oracle製ソフトウェア関連マニュアル

<http://docs.sun.com/>

ご意見をお寄せください

本書に関するご意見、ご要望または内容に不明確な部分がありましたら、マニュアル番号、マニュアル名称、ページおよび具体的な内容を下記URLの『お問い合わせ』から送付してください。

SPARC Enterpriseマニュアルのサイト:

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

XCP 1093 に関する一般的な情報

ここでは、XCP 1093に関する一般的な情報について説明します。

- サポートされるファームウェアおよびソフトウェア
- XCP 1093へのアップデート
- 機能の問題と制限

サポートされるファームウェアおよびソフトウェア

SPARC Enterprise M3000サーバでは、搭載されているプロセッサによって、サポートされるファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョンが異なります。

表 1 サポートされるファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョン

搭載されるプロセッサ	XCP ファームウェア	オペレーティングシステム
SPARC64 VII プロセッサ		
2.52GHz	XCP 1080以降	Solaris 10 5/08以降、および必須パッチ
2.75GHz	XCP 1091以降	Solaris 10 10/08以降

注 - XCP 1080は、SPARC Enterprise M3000 サーバでサポートされるXCPの、最初のバージョンです。

注 - 8GB DIMMは、XCP 1081以降でサポートされます。

XCPは、以下のウェブサイトからダウンロードできます。

<https://updatesite.jp.fujitsu.com/unix/jp/download/firmware/>

XSCF Webは、多くのウェブブラウザでサポートされます。このうち、XSCF Webの動作することが確認されているウェブブラウザは、表 2のとおりです。その他のXSCF Webの情報については、6ページの「[XSCF Webに関する留意点](#)」を参照してください。

表 2 動作確認済みのウェブブラウザのバージョン

ウェブブラウザ	バージョン
Microsoft Internet Explorer	6.0、7.0、または8.0
Firefox (Solaris 10)	2.0または3.5.9

Solarisパッチに関する情報

Solaris 10 10/08以降を使用する場合は、必要なパッチはありません。

Solaris 10 5/08用パッチ

SPARC64 VIIプロセッサ 2.52GHzが搭載されたSPARC Enterprise M3000サーバ上で、Solaris 10 5/08 OSを使用する場合には、以下のパッチが必要です。パッチは以下に記載されている順番に適用してください。

- 119254-59
- 138866-01
- 137137-09

その他のSolaris OSの情報については、28ページの「[Solaris OSに関する問題と回避方法](#)」を参照してください。

注 – xページの「[ソフトウェアリソース](#)」を参照し、最新パッチの入手方法を確認してください。インストールに関する情報とREADMEファイルがパッチと一緒にダウンロードされます。

Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ

以下のEmulexカードは、パッチ120222-26で提供されるドライバが必要です。

- XSEFC402AF Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA
- XSEFC401AF Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA

XCP 1093へのアップデート

XCP 1093へのアップデート手順については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

XSCFファームウェアのリセット

ファームウェアをXCP 1093にアップデートしたあとは、`rebootxscf(8)`コマンドを使用して、必ずXSCFをリセットしてください。

機能の問題と制限

ここでは、本リリース時点でわかっている問題および制限事項について説明します。

Active Directoryに関する留意点

- Active Directoryが有効の場合、`telnet`を使用してログインを試みると、2台目以降の代替サーバに対する問い合わせがタイムアウトして、ログインに失敗することがあります。
- `setad(8)`コマンドの `timeout` オペランドで設定した値が小さい場合、XSCFにログインすると、ユーザー権限が付与されないことがあります。このときは、`timeout` の設定値を大きくして再度実行してください。

LDAP/SSLに関する留意点

setldapssl(8)コマンドの `timeout` オペランドで設定した値が小さい場合、XSCFにログインすると、ユーザー権限が付与されないことがあります。このときは、`timeout` の設定値を大きくして再度実行してください。

電力モニタ機能およびエアフローインディケータに関する留意点

- 以下のような場合、MIB情報や `showenvironment power/showenvironment air` コマンドおよび XSCF Web で、消費電力および排気量の値が正しく表示されないことがあります。1分後に、再度、値を確認してください。
 - 本体装置の電源投入／切断中、あるいは投入／切断完了後しばらくの間
 - 電源ユニットの活性交換中、あるいは活性交換完了後しばらくの間
- 電力モニタ機能およびエアフローインディケータで表示される数値は、それぞれ、本体装置の消費電力および排気量を示します。周辺装置に対する数値は含まれません。

NTPサーバに関する留意点

- ドメインは XSCF を NTP サーバ とすることを推奨します。この場合、以下の注意が必要です。
 - XSCF は、外部 NTP サーバ に接続しなければなりません。
 - XSCF のほか、1つまたは複数の NTP サーバ をドメインに接続する場合は、XSCF に指定した NTP サーバ と同じサーバに接続してください。

NTP の詳細については、当社技術員にお問い合わせください。NTP 設定の詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

NTPサーバがローカルクロックを参照している場合の留意点

XSCF の参照する NTP サーバ が、サーバ自身のシステム時刻(ローカルクロック)を参照し、そのローカルクロックにアドレス「127.127.1.0」が設定されている場合、XSCF で時刻同期できないことがあります。

XSCF 自身の持つローカルクロックのアドレスは「127.127.1.0」で固定となっています。いっぽう、XSCF が参照する NTP サーバ のローカルクロックのアドレスが「127.127.1.0」に設定されていると、クロックソース(`refid`)のアドレスが XSCF 自身の持つローカルクロックのアドレスと同じ値になります。このような NTP サーバ は、XSCF の時刻同期の対象から外されます。

showntp -l コマンドを実行すると、XSCFで設定されているNTPサーバ自身のクロックソース、およびXSCF自身のローカルクロックのアドレスが参照できます。

```
XSCF> showntp -l
remote refid st t when poll reach delay offset jitter
=====
192.168.1.2 LOCAL(0) 3 u 10 1024 377 0.000 0.000 0.000
*127.127.1.0 .LOCL. 5 l 28 64 377 0.000 0.000 0.008
```

出力された2つのNTPサーバのうち、上段(192.168.1.2)はsetntp(8)コマンドで設定されたNTPサーバです。refidがLOCAL(0)となっているため、このNTPサーバのクロックソースには、アドレスが「127.127.1.0」のローカルクロックが設定されています。いっぽう、下段はXSCF自身のローカルクロックです。XSCF自身のローカルクロックのアドレスは「127.127.1.0」で固定となっています。これにより、NTPサーバ(192.168.1.2)はXSCFの時刻同期の対象から外れてしまうため、XSCFは自身のローカルクロックに時刻同期することになります。

以下のいずれかの方法で回避することにより、setntp(8)コマンドで設定したNTPサーバと正しく時刻同期できるようになります。

- XSCFに設定されているNTPサーバが参照するクロックソースを変更する

showntp -l コマンドを使用して、XSCFに設定されているNTPサーバのクロックソースを確認します。refidがLOCAL(0)と出力されるNTPサーバは、アドレスが「127.127.1.0」のローカルクロックを参照しているため、別のクロックソースを参照するように変更してください。

NTPサーバのクロックソースを変更する場合は、他のNTPクライアントに影響がないことを、事前に確認してください。

- NTPサーバのローカルクロックのアドレスを変更する

XSCFが参照するNTPサーバの、ローカルクロックのアドレスを「127.127.1.1」または「127.127.1.2」または「127.127.1.3」に変更します。Solaris OSの/etc/inet/ntp.confを変更します。変更を有効にするには、NTPデーモンの再起動が必要です。

NTPサーバのローカルクロックのアドレスを変更する場合は、他のNTPクライアントに影響がないことを、事前に確認してください。

- NTPサーバのstratum値を変更する

XSCFが参照するNTPサーバのstratum値を1に変更します。stratum値が1のNTPサーバは最上位のクロックソースとなり、refidは持ちません。したがって、XSCF自身のローカルクロックのアドレスと同じになることはありません。

NTPサーバのstratum値を変更する場合は、他のNTPクライアントに影響がないことを、事前に確認してください。

● XSCF自身のローカルクロックのアドレスを変更する

setntp -m localaddr=valueコマンドを使用して、XSCF自身のローカルクロックのアドレスを変更します。valueには、ローカルクロックのクロックアドレス「127.127.1.x」の、最下位バイトを指定します。0から3までの数値で指定できます。valueに1から3までのいずれかの値を指定することにより、ローカルクロックを参照しているNTPサーバのアドレスと、XSCF内部のローカルクロックのアドレスが一致なくなるため、ローカルクロックを参照しているサーバでも、XSCFのNTPサーバに設定できるようになります。

XSCF Webに関する留意点

- XSCF Webでは、Windows 7^{*1}とInternet Explorer 8.0環境下で、ビルトイン Administratorアカウントでの使用をサポートしていません。
- Internet Explorer 8.0で、画面内部の水平フレームを上下させてフレームの高さを変更後、[Monitor Msg Show/Hide]ボタンを使用すると、画面の背景色が黒くなる場合があります。この場合は、[表示]-[最新の情報に更新]を選択するかF5キーを押して、ブラウザを更新し、ログイン直後の画面に戻してください。
なお、画面内部の水平フレームを上下させてフレームの高さを変更した場合は、[Monitor Msg Show/Hide]ボタンを使用しないでください。
- XCP 1080がインストールされたサーバでXSCF Webを使用する場合は、ブラウザのキャッシュ機能を無効にしてください。キャッシュを有効にしておくと、キャッシュされた古いデータがWebページに表示されてしまうことがあります。キャッシュを無効にする方法については、ご使用のブラウザによって、以下のように設定してください。
 - Internet Explorer 6および7:
[ツール]-[インターネット オプション]-[詳細設定]タブにある「暗号化されたページをディスクに保存しない」をチェックします。
 - Netscape 7.1以降:
[編集]-[設定]-[詳細]-[キャッシュ]-[キャッシュにあるページとネットワーク上のページの比較]の項目で「ページにアクセスするたび」を選択します。
 - Firefox 2:
アドレス欄に「about:config」と入力し、フィルタ欄に「cache」と入力します。リストにある「browser.cache.check_doc_frequency」の設定値を「1」に変更します。
- XSCF Webを使用し、XCPのインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上にSession ID errorが表示されることがあります。また、Autologout設定でタイムアウト時間を30分以上で指定すると、ファームウェアア

*1.Windowsは、アメリカ合衆国や他の国のマイクロソフトの登録商標または商標です。

アップデートの際にInternal Server Errorが表示されることがあります。現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開いて、XSCF Webに接続しなおしてください。

- Internet Explorer 6または7、Firefox 2環境下でXSCF Webを使用するとき、ブラウザに検索ツールなどのプラグインが組み込まれている場合は、プラグインを削除する、またはポップアップブロック設定を無効にしてください。

Internet Explorer 8、Firefox 3環境下でXSCF Webを使用するときは、ポップアップブロック設定を無効にしてください。

- Firefox 3環境下でXSCF Webを使用する場合、XSCFログイン時に、ブラウザからログインID/パスワードの保存を要求されることがあります。このときログインID/パスワードを保存しないでください。ログインID/パスワードを保存すると、保存されたデータがLDAP、SMTP、およびREMCSのWebページに表示されてしまうことがあります。

以下のどちらかを設定して、ブラウザのログインID/パスワード保存機能を無効にしてください。

- ブラウザ全体のログインID/パスワード保存機能を無効にする
[ツール]-[オプション]-[セキュリティ]タブにある[パスワード]-「サイトのパスワードを保存する」のチェックを外します。
- ログインID/パスワード保存の例外サイトに指定する
[ツール]-[オプション]-[セキュリティ]タブにある[パスワード]-「サイトのパスワードを保存する」をチェックしたあと、XSCFログイン時に出力されるID/パスワード保存のためのダイアログにある、「このサイトでは記憶しない」ボタンをクリックします。これにより、ID/パスワード保存の「例外サイト」リストにXSCFのアドレスが登録され、以降のXSCFへのログイン時に、ID/パスワード保存のためのダイアログが出力されなくなります。

一般的な機能の問題と制限

- setarchiving(8)、showarchiving(8)コマンド、およびXSCF WebのLog Archivesメニューによるログアーカイブ機能はサポートしていません。
- 外部電源制御装置 (F7973RC1) の外部電源制御インターフェース (EPC)を使用するとき、次の通知信号はサポートされていません。
 - OSパニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (*CPUN/RTNU)
 - 本体装置ハードウェア異常信号(電源異常、温度異常、ファン異常) (*ALARM)
- 以下の語はシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。
root、bin、daemon、adm、operator、nobody、sshd、rpc、rpcuser、ldap、apache、ntp、admin、default、proxyuser

- XSCF-LANはオートネゴシエーションに対応しています。XSCF-LANと全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、IEEE802.3の規約によって、XSCF-LANは半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。XSCF-LANと接続するネットワーク機器は、必ずオートネゴシエーションに設定してください。
- `restoredefaults(8)` コマンドは、現時点ではサポートされていません。
- `snapshot(8)` コマンドの `-e`、`-p`、`-l` オプションは現時点ではサポートされません。

ハードウェアに関する情報

ここでは、SPARC Enterprise M3000 サーバのハードウェアに関する特記事項や問題点について説明します。

- 200V電源を使用する場合の注意事項
- DVDドライブ/ディスクの使用について
- USBメモリの使用について
- 電源制御とオペレーターパネルのモードスイッチについて
- ハードウェアマニュアルの変更予定
- UPSコントローラー (UPC) の分岐接続

200V電源を使用する場合の注意事項

B型プラグを持つ本体装置においては、本体装置外に15Aの過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) やヒューズなどを使用して、15Aの過電流保護を行ってください。B型プラグとは、平行2極接地極付プラグ以外のNEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。

DVDドライブ/ディスクの使用について

本体装置に搭載されているDVDドライブを使用する際の注意事項があります。次のウェブサイトから『SPARC EnterpriseでのDVDドライブ/ディスクの使用について』を参照してください。

URL:

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

CD-RW/DVD-RWドライブユニット

CD-RW/DVD-RWドライブユニットはSlot-inタイプ（図 1）とTrayタイプ（図 2）をサポートしています。

図 1 Slot-inタイプ



図 2 Trayタイプ



注 – ご使用のサーバによって、LEDやボタンの位置が異なる場合があります。

注 – Trayタイプにメディアを挿入する場合、メディアの中心部分がトレイのクランプ部に固定されていることを確認してから、トレイをドライブ内に押し込んでください。

USBメモリの使用について

`dumpconfig(8)`、`restoreconfig(8)`、`snapshot(8)`コマンド実行時に、データの保存先としてUSBメモリを指定する場合は、あらかじめ、媒体となるUSBメモリをご用意ください。

なお、保存されたデータにはシステムに関する情報が含まれています。USBメモリをご利用になる場合には、セキュリティ保持の観点から、データが保存されたUSBメモリの管理について留意が必要となります。

現在販売されているすべてのメーカーのUSBメモリに対して、XSCFとの接続性および動作を保証してはおりません。ご使用のUSBメモリによっては、XSCFファームウェアのエラーやリセットなどの異常が発生する場合も考えられます。そのような異常が発生した場合には、ただちに、USBメモリの使用を中止してください。

XSCF用USBポートにUSBメモリを接続する場合は、直接、USBポートにUSBメモリを接続してください。USBハブやUSB延長ケーブルなどを介して接続すると、エラーの要因となる場合があります。

電源制御とオペレーターパネルのモードスイッチについて

RCI機能によるリモート電源制御や自動電源制御機能（APCS）使用時の電源投入／切断は、オペレーターパネルのモードスイッチを切り替えて制御できます。詳細は、『SPARC Enterprise M3000 サーバ サービスマニュアル』「はじめに」の「制限および注意事項」を参照してください。

ハードウェアマニュアルの変更予定

ここでは、SPARC Enterprise M3000 サーバのハードウェアマニュアルに関して、出版後にわかった最新のハードウェアに関する情報やマニュアルの変更予定を示します。

表 3 では、マニュアルの変更予定を示します。

表 3 ハードウェアマニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M3000 サーバ 設置計画 マニュアル	2-4	「表2.2 物理仕様」および「図2.3 本体装置の梱包箱」に記載されている梱包箱の高さを変更します。正しい値は、289 mm/11.4 in.です。
	3-4	「表3.3 電氣的仕様」に突入電流および漏洩電流の値を追加します。13ページの「電氣的仕様」を参照してください。
SPARC Enterprise M3000 サーバ 製品概要	1-17	「1.4.5.2 CD-RW/DVD-RWドライブユニット/テープドライブユニット」を変更します。10ページの「CD-RW/DVD-RWドライブユニット」を参照してください。
	1-18	「1.4.6.2 SASポート」 本文を以下の内容に変更します。 テープドライブなどSASインターフェースを持つ外部機器を接続するためのポートです。接続可能な機器については当社技術員にご確認ください。 なお、本ポートにおいて最大600MB/s(3Gbpsx2wide)の転送速度をサポートします。
SPARC Enterprise M3000 サーバ サービス マニュアル	11-2	「11.1 CD-RW/DVD-RWドライブユニットへのアクセス」にタイプの特定とアクセスに関する説明を追加します。10ページの「CD-RW/DVD-RWドライブユニット」を参照してください。

『SPARC Enterprise M3000 サーバ 設置計画マニュアル』の変更予定

次の情報は、『SPARC Enterprise M3000 サーバ 設置計画マニュアル』の情報よりも優先されます。

電氣的仕様

ここでは、M3000サーバの電氣的仕様について説明します。

注 - 表 3.3に示す電力の数値は、最大構成時の本体装置に基づいた最大値です。実際の数値は、本体装置の構成によって異なる場合があります。

表 3.3 電氣的仕様

項目	仕様			
	CPU 2.52 GHz	CPU 2.75 GHz		
入力電圧	AC100~120 V AC200~240 V	AC100~120 V AC200~240 V		
電源コードの数	2本（電源ユニットごとに1本）	2本（電源ユニットごとに1本）		
電源コードの長さ	3 m/9.84 ft	3 m/9.84 ft		
冗長性	1+1の冗長構成	1+1の冗長構成		
定格電流 [*]	4.80 A 2.59 A	5.15 A 2.81 A		
周波数	50/60 Hz	50/60 Hz		
最大消費電力	470 W 460 W	505 W 500 W		
皮相電力	480 VA 517 VA	515 VA 562 VA		
発熱量	1,603.7 BTU/hr (1,692 kJ/hr)	1,569.6 BTU/hr (1,656 kJ/hr)	1,723.1 BTU/hr (1,818 kJ/hr)	1,707.9 BTU/hr (1,802 kJ/hr)
力率	0.98	0.89	0.98	0.89
突入電流 [†]	25 A以下	25 A以下	25 A以下	25 A以下
漏洩電流 [†]	1.75 mA以下	1.75 mA以下	1.75 mA以下	1.75 mA以下

*. 冗長構成時に電源コード1本あたりに流れる定格電流は、表 3.3に記載されている値の半分になります。

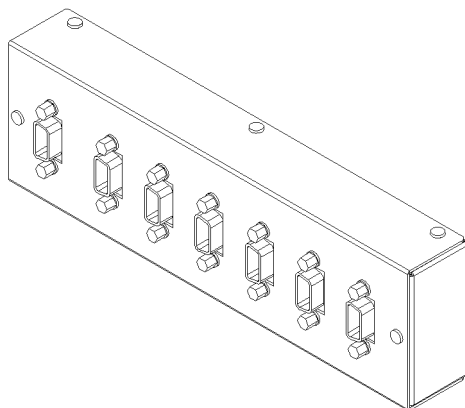
†. 電源コード1本あたりの値です。

UPSコントローラー（UPC）の分岐接続

UPC 6分岐コネクタを使用すると、最大6台の無停電電源装置（UPS）を接続できます。

UPC 6分岐コネクタの外観図を図 3に示します。

図 3 UPC 6分岐コネクタ



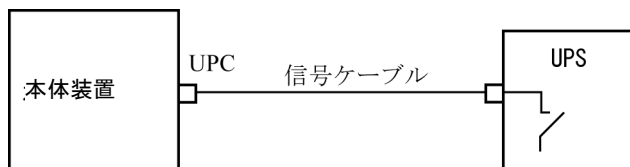
本体装置のUPCは、以下に説明している条件を満たせば、分岐コネクタを使用して複数台のUPSに接続できます。ここでは、本体装置の、UPCの分岐接続の条件について説明します。

接続できる場合

UPSと本体装置が以下の接続形態の場合には、信号ケーブルを接続できます。

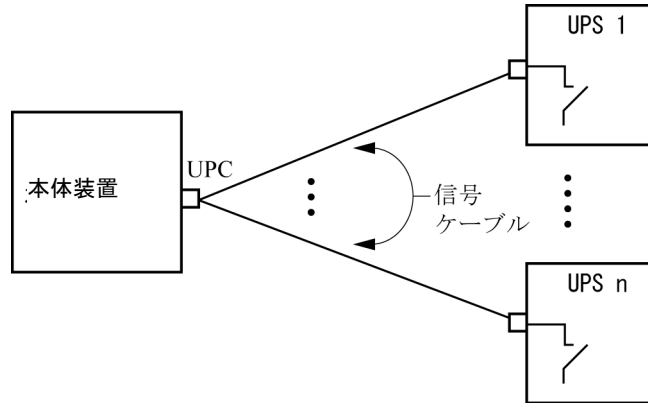
- 1台の本体装置に1台のUPSを接続する場合（図 4参照）
- 1台の本体装置に複数台のUPSを接続する場合（図 5参照）

図 4 UPSと本体装置との信号ケーブルの接続
(1台の本体装置に1台のUPSを接続する場合)



重要 - 1 台の本体装置に複数台の UPS を接続する場合、本体装置からの送出信号 (ER 信号) の条件によっては、信号ケーブルが接続できないことがあります。この接続形態で接続する場合には、当社技術員にご相談ください。

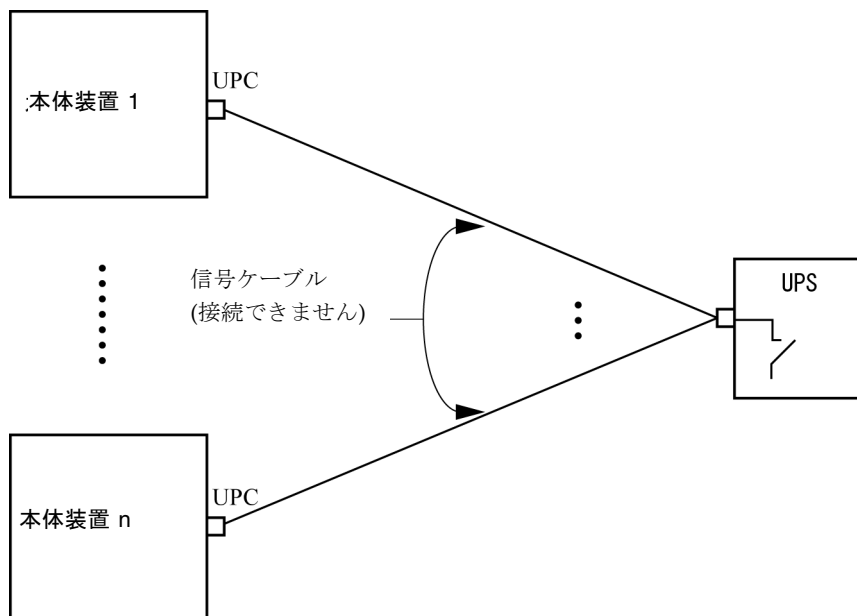
図 5 UPSと本体装置との信号ケーブルの接続
(1台の本体装置に複数台のUPSを接続する場合)



接続できない場合

複数台の本体装置に1台のUPSを接続する場合（図 6参照）、UPSと本体装置との信号ケーブルの接続はできません。

図 6 UPSと本体装置との信号ケーブルの接続ができない場合
(複数台の本体装置に1台のUPSを接続する場合)



ソフトウェアに関する情報

ここでは、SPARC Enterprise M3000 サーバのソフトウェアに関する特記事項や問題点について説明します。

- [Active DirectoryとLDAP/SSL](#)
- [XCPに関する問題と回避方法](#)
- [Solaris OSに関する問題と回避方法](#)
- [ソフトウェアマニュアルの変更予定](#)
- [システム内の縮退メモリの識別](#)

Active DirectoryとLDAP/SSL

XCP 1091から、Active Directory機能とLDAP/SSL機能がサポートされるようになりました。

- Active DirectoryはMicrosoft Corporationによって開発された分散型ディレクトリサービスです。Active DirectoryはLDAPディレクトリサービスと同様に、ユーザー認証に利用されます。
- LDAP/SSLはSecure Socket Layer (SSL) 技術により、LDAPユーザーに対して強化されたセキュリティを提供します。

注 – セキュリティ上の理由から、XSCFでは、Active DirectoryおよびLDAP/SSLとの通信にLDAP over SSLプロトコル (LDAPS) が使用されます。

Active DirectoryとLDAP/SSLはそれぞれ、ユーザー証明書の認証、およびネットワークリソースに対するユーザーアクセスレベルの許可、の両方を提供します。システムリソースにアクセスする前に特定のユーザーを識別したり、ネットワークリソースへのアクセスを制御する特定のアクセス権限をユーザーに与えたりするために、Active DirectoryとLDAP/SSLは認証を使用します。

ユーザー権限は、XSCFで設定されるか、各ユーザーのグループメンバーシップに基づいて、ネットワークドメイン内のサーバから取得されます。ユーザーは複数のグループに属することができます。ユーザードメインはユーザーを認証するために使用される認証ドメインです。Active Directoryは、ユーザードメインが設定された順にユーザーを認証します。

いったん認証されると、ユーザー権限は以下の方法で決定されます。

- 最も簡単な場合は、ユーザー権限はXSCF上のActive DirectoryまたはLDAP/SSL設定によって決定されます。Active DirectoryとLDAP/SSLにはdefaultroleというパラメーターがあります。defaultroleパラメーターが構成、設定されると、Active DirectoryまたはLDAP/SSLを介して認証されたすべてのユーザーは、defaultroleパラメーターに設定されたユーザー権限が割り当てられます。Active DirectoryまたはLDAP/SSLサーバで設定されたユーザーには、グループメンバーシップにかかわらず、パスワードだけが必要となります。
- defaultroleパラメーターが構成されていないまたは設定されていない場合は、ユーザーのグループメンバーシップに基づいて、ユーザー権限はActive DirectoryまたはLDAP/SSLサーバから取得されます。XSCFでは、groupパラメーターはActive DirectoryまたはLDAP/SSLサーバのグループ名に対応している必要があります。各グループは、XSCF上で設定される、グループに関連づけられたユーザー権限を持っています。いったん、ユーザーが認証されると、ユーザーのグループメンバーシップはユーザー権限を決定するために使用されます。

Active DirectoryとLDAP/SSLでは、administrator（管理者）、operator（オペレーター）、custom（カスタム）の3種類のグループが設定できます。管理者グループとオペレーターグループを設定する場合は、グループ名だけが必要です。

管理者グループにはplatadm、useradm、およびauditadmのユーザー権限があります。オペレーターグループにはplatopとauditopのユーザー権限があります。カスタムグループを設定する場合はグループ名とユーザー権限が必要です。各グループのタイプには最大5つのグループが設定できます。1つ以上のグループを割り当てられたユーザーは、それらのグループが持つすべてのユーザー権限を取得します。

Active DirectoryとLDAP/SSLの機能をサポートするために、XSCF WebのSettingsメニューに、2つの新しい設定画面（Active DirectoryとLDAP/SSL）が追加されました。リモートユーザーは、Active DirectoryまたはLDAP/SSLによっていちど認証されると、ログインしてXSCF Webを使用できるようになります。

注 - Active DirectoryまたはLDAP/SSLユーザーは、ユーザー公開鍵をXSCFへアップロードしないでください。すでにユーザー公開鍵がアップロードされている場合は、以下のコマンドでユーザー公開鍵を削除してください。

```
XSCF> setssh -c delpubkey -a -u proxyuser
```

Active DirectoryまたはLDAP/SSLユーザーは、ユーザー公開鍵による認証ではなく、パスワード認証を使用してXSCFにSSHに接続し、ログインしてください。

Active DirectoryをサポートするためのXSCFの設定

setad(8)コマンドとshowad(8)コマンドを使用すると、Active Directoryを設定および表示できます。デフォルトではActive Directoryは無効となっています。Active Directoryを有効にする場合は、以下のコマンドを使用します。

```
XSCF> setad enable
```

Active Directoryを無効にする場合は、以下のコマンドを使用します。

```
XSCF> setad disable
```

Active Directoryが有効か無効かを確認する場合は、以下のコマンドを使用します。

```
XSCF> showad
```

さまざまなパラメーターを指定してActive Directoryを設定する場合、setad(8)コマンドを使用してください。たとえば、1つのプライマリと5つの代替Active Directoryサーバを設定する、グループ名とユーザー権限を割り当てる、特定のユーザードメインを設定する、診断メッセージのログを制御する、などで使用できます。ユーザードメインは、XSCF上でsetad userdomainコマンドによって設定できます。また、ログインプロンプトでuser@domainの形式で入力することもできます。

setad(8)およびshowad(8)コマンドのマニュアルページとともに、[表 11](#)にあるコマンドの注記を参照してください。

LDAP/SSLをサポートするためのXSCFの設定

setldapssl(8)コマンドとshowldapssl(8)コマンドを使用すると、LDAP/SSLを設定および表示できます。LDAP/SSLを設定および表示するこれらのコマンドは、Active Directoryを設定および表示するためのsetad(8)とshowad(8)コマンドと同じパラメーターをサポートしています。

setldapssl(8)およびshowldapssl(8)コマンドのマニュアルページを参照してください。

ユーザーアカウント名とUIDに関する留意点

ユーザーアカウントデータに対してLightweight Directory Access Protocol (LDAP)、Active Directory、またはLDAP/SSLを使用するようにXSCFで設定されている場合、ユーザーアカウント名および（設定している場合は）ユーザーIDは、XSCF、LDAP、Active Directory またはLDAP/SSL で未使用のものでなければなりません。

新しいシステムアカウントproxyuser

XCP 1091から、Active DirectoryとLDAP/SSLをサポートするために、proxyuserという新しいシステムアカウントが追加されました。proxyuserというユーザーアカウントがすでに存在していないかどうかを確認してください。もし、proxyuserがユーザーアカウントとして存在している場合は、deleteuser(8)コマンドを使用してアカウントを削除してください。削除したら、Active DirectoryまたはLDAP/SSL機能を使用する前に、XSCFをリセットしてください。

XCPに関する問題と回避方法

この章では、XCPに関する問題について記載します。表 4、表 5、表 6はご使用のXCP版数によって発生しうる問題を示しています。

XCP 1093で発生しうる問題

表 4 に、XCP 1093で発生しうる問題とこれらの問題に対する回避方法を示します。

表 4 XCP 1093 で発生しうる問題と回避方法

ID	説明	回避方法
RTIF1-080725-001	setsnmp adv3traphost を実行した場合、Trap ホストが動作していない、ユーザー名やパスワードの間違いなどの理由で、認証に失敗すると、以降のSNMP Trap が通知されません。	有効な回避方法はありません。 SNMP TRAP ホストが起動されていることを確認の上、正しいユーザー名で setsnmp(8) コマンドを再度実行してください。
RTIF1-080725-002	SNMPv3 トラップを設定している場合、XSCF で watchdog タイムアウトが発生しXSCF がリセットされると、以降のSNMP Trap が通知されません。	XSCF をリセットしてください。

表 4 XCP 1093 で発生しうる問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-081016-002	FRUが (システムの電源切断を伴い) 停止交換されたとき、 (電源投入後) 監視プロセスが、発生した交換操作を示すような監視メッセージログのエントリーを生成しない場合があります。	有効な回避方法はありません。
RTIF1-081225-001	settimezone -c adddstコマンドで、タイムゾーンの略称とサマータイム名を8文字以上に設定すると、showlogsコマンド実行時にSegmentation faultが発生し、コマンドが異常終了します。	タイムゾーンの略称とサマータイム名は7文字以内で指定してください。
RTIF1-090108-003	XSCF Webで表示されるLast Updateの日時が更新されない場合があります。	ブラウザ画面を更新してください。
RTIF1-090427-005	setpasswordpolicy(8)コマンドで Different Charactersに "9999999999"(10桁)を設定したあと、showpasswordpolicy(8)コマンドで表示すると"-1"になってしまいます。	有効な回避方法はありません。 XSCF Webを使用してください。
RTIF1-100331-001	sethttps(8)コマンドで自己認証局およびCSRを生成する場合、e-mailオペランドに空白文字 (例:" ") を指定すると、XSCFリセット後にHTTPS機能が無効になってしまいます。	自己認証局およびCSRを生成する場合、e-mailオペランドに空白文字を指定しないでください。
RTIF1-100331-002	8Gbpsファイバーチャネルカード (SE0X7F21F、SE0X7F22F) に接続されたディスクからドメインを起動する場合、ディスクの故障などが原因でドメインを起動できないと、"FRU: /UNSPECIFIED" のエラーログが登録されることがあります。	有効な回避方法はありません。

XCP 1093で解決された問題

表 5 に、XCP 1093で解決された問題を示します。

表 5 XCP 1093 で解決された問題

ID	説明	回避方法
RTIF1-100713-001	Solaris10 OS動作中に、RED State Exceptionまたはwatchdog Resetが発生したり、reset xir コマンドを実行したりすることでドメインのCPUがリセットされた場合、コンソールに以下のメッセージが出力され、ドメインがハングアップすることがあります。 Failed to complete trap processing. mid=0xXX	有効な回避方法はありません。 問題が発生した場合は、ドメインの電源を切断後、再投入してください。

XCP 1093以前で解決された問題

表 6 に、XCP 1093以前で解決された問題を示します。

表 6 XCP 1093 以前で解決された問題

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-009	XSCF動作中、プロセスダウン、watchdogタイムアウトまたはハングアップが発生し、XSCFがリセットする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、ドメインを停止後、本体装置の電源切断/投入（AC OFF/ON）を実行してください。電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待ってから電源を投入してください。
RTIF1-070528-002	XSCFが動作中、watchdogタイムアウトが発生し、XSCFがリセットする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、ドメインを停止後、本体装置の電源切断/投入（AC OFF/ON）を実行してください。電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待ってから電源を投入してください。
RTIF1-070824-001	ドメインの電源連動機能のリモート電源制御モードを有効にしている場合、マザーボードユニット交換後、RCIによる電源連動が作動しなくなります。	マザーボードユニット交換後、RCIを再構築し、リモート電源制御モードを設定してください。
RTIF1-071102-002	snmpデーモンが終了する場合があります。	setsnmp enableコマンドを実行し、snmpデーモンを再起動してください。

表 6 XCP 1093 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-080725-004	XSCF シェルでサマータイムを設定すると、XSCF Web の Logs メニューで表示される時刻が、正しく表示されません。	有効な回避方法はありません。 XSCF シェルの <code>showlogs(8)</code> コマンドを使用してください。
RTIF1-081006-001	"XSCF FMEM write error" のエラーログが記録され、ファームウェアアップデートが失敗する場合があります。	システムの電源をいったん切断 (AC OFF) してから、再投入 (AC ON) してください。その後、再度ファームウェアアップデートを実行してください。
RTIF1-081006-002	setemailreport(8) コマンドで、SMTP アドレスに 255 文字以上指定するとエラーになります。	SMTP アドレスに 255 文字以上指定しないでください。
RTIF1-081006-003	ドメイン動作中、XSCF ユニットの故障が原因で XSCF がリセットされたあと、ハードウェアの状態を表示すると、CPU とメモリのステータスが Deconfigure と表示されます。	マザーボードユニットだけ交換してください。このときメモリに故障がなければ、メモリを交換する必要はありません。
RTIF1-081006-004	ファームウェアアップデート中に以下のメッセージが出力され、XSCF がパニックすることがあります。 kernel BUG in jffs2_do_read_inode at fs/jffs2/readinode.c:XXX!	XSCF をリセットしたあと <code>flashupdate(8)</code> コマンドを使用して、再度、ファームウェアアップデートを行ってください。
RTIF1-081006-005	XSCF Web のネットワーク設定では、 <code>setnetwork -r</code> コマンドに相当する機能がサポートされていません。また、ホスト名やドメイン名に <code>localhost</code> や <code>localdomain</code> を指定すると "SessionID has expired" とエラーメッセージが出力されます。	XSCF シェルで <code>setnetwork -r</code> コマンドを実行してください。
RTIF1-081006-006	XSCF Web でパニックログを表示すると、メッセージの先頭部分から表示されないことがあります。	表示内容が不足している場合は、XSCF シェルで <code>showlogs panic</code> コマンドを実行してください。
RTIF1-081006-007	<code>password(8)</code> コマンドの <code>[user]</code> オペランドは、ドキュメントでは省略可となっているにもかかわらず、オプション設定時に指定しない場合はエラーとなります。	有効な回避方法はありません。 オプションを設定した場合は、 <code>user</code> オペランドを指定して <code>password(8)</code> コマンドを実行してください。
RTIF1-081006-011	SNMP トラップホストの設定を変更しても、 <code>setsnmp disable</code> と <code>setsnmp enable</code> を実行するまで反映されません。	SNMP の設定を変更した場合は、以下のコマンドを実行してください。 XSCF> <code>setsnmp disable</code> XSCF> <code>setsnmp enable</code>
RTIF1-081016-001	UPS 装置が停電を検知しても、SNMP Trap が通知されません。	有効な回避方法はありません。

表 6 XCP 1093 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-081016-003	<p>Internet Explorer 6 または 7 で、XSCF Web の [Setting]-[Audit] メニューから [Add Policy] を選択したときに表示されるポップアップ画面上で、[Reset] ボタンをクリックしたあと [OK] ボタンをクリックすると、以下のメッセージが出力され、ログアウトされる場合があります。</p> <p>Error Session Error Session ID has been expired</p>	<p>XSCF Web に再ログインしてください。ポップアップ画面の [User] テキストボックス内のテキストを消去する場合は、[Reset] ボタンを使用せずに、BackSpace キーを使用してください。</p>
RTIF1-081030-002	<p>設定されているタイムゾーンの略称が、3 文字でない場合、XSCF Web の Error Log ページでエラーログが表示されません。</p> <p>また、XSCF Web の Panic Log および IPL Message Log ページのテーブル上部にあるログ採取時刻が "---" と表示されます。</p>	<p>XSCF シェルで showlogs(8) コマンドを使用してください。</p>
RTIF1-081104-001	<p>PCI スロットの異常が検出された場合、監視メッセージログが登録されない場合があります。</p>	<p>有効な回避方法はありません。</p> <p>PCI スロットの故障情報は、showlogs error コマンドまたは fmdump コマンドで確認してください。</p>
RTIF1-090108-001	<p>ドメインのコンソールに、 ipsec_check_inbound_policy: Policy Failure for the incoming packet (not secure) というメッセージが表示されることがあります。</p>	<p>このメッセージは無視しても差し支えありません。</p>
RTIF1-090108-002	<p>二系統受電構成の場合、片方の電源系統で停電 / 復電が繰り返し発生すると、全ドメインの電源が強制的に切断されます。また、強制的に電源が切断されたあとの復電時に、PSU 構成違反がエラーログに登録され、復電が開始されない場合があります。</p>	<p>電源コードの抜き差しが必要です。</p>
RTIF1-090115-001	<p>settelnet -c disable コマンドを実行すると、ただちに Telnet サービスは停止します。ただし、rebootxscf(8) コマンドで XSCF をリセットしないと、次回 Telnet サービスを再開する際に、失敗する場合があります。</p>	<p>Telnet サービスを停止したあとは、rebootxscf(8) コマンドを実行して、XSCF をリセットしてください。</p>
RTIF1-090122-001	<p>PSU が復電する前に、"Power recovery" のメッセージが表示されます。</p>	<p>"Power recovery" のメッセージが表示されたあとに、ほかの PSU の電源を切断する場合は、60 秒待ってください。</p>
RTIF1-090220-001	<p>複数の本体装置と I/O 装置が RCI で接続されたシステムの場合、1 台の本体装置の電源を投入しても、I/O 装置の電源が投入されないことがあります。</p>	<p>すべての本体装置の電源を投入してください。</p>

表 6 XCP 1093 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-090220-002	マザーボードユニットを交換すると、RCIの電源連動設定がデフォルト値に戻ってしまいます。	電源連動設定をデフォルト値以外に設定している場合は、マザーボードユニットを交換したあとに、 <code>setpwrmode(1M)</code> コマンドを使用して電源連動設定を再度行ってください。
RTIF1-090427-001	XSCFとSolaris OSが通信を行うための装置内ネットワークインターフェース(ppp)が、正常な状態であるにもかかわらず、SNMP MIBで異常(ダウン)状態と通知されます。	有効な回避方法はありません。
RTIF1-090427-002	XSCFのリセットあるいは切替え発生後に、LDAPサーバを使用したXSCFへのログインができなくなります。	有効な回避方法はありません。 この現象が発生した場合は、アクティブXSCFへ初期アカウントでログインしてから、以下のコマンドを実行し、証明書チェーンを再インポートしてください。 <code>'setldap -c <remote file>'</code>
RTIF1-090427-004	LDAPサーバの設定において、XSCF WebとXSCFシェルの設定可能文字数が一致していません。XSCF Webでは128文字までしか入力できません。	129文字以上を設定する場合はXSCFシェルを使用してください。
RTIF1-090430-001	XSCFでhttpsの設定(自己認証局)後にウェブサーバ証明書を作成しても、httpsが有効になりません。	自己認証局を設定する場合は、空白文字を指定しないでください。
RTIF1-090508-001	10 Gigabit Ethernetカード(SE0X7HE1F)が搭載されたドメインで、OpenBoot PROM環境変数diag-switch?をtrueに設定していると、コンソールに以下のワーニングメッセージが出力されるとともに、エラーログに"Msg: Device error (FCode informed error)"が記録されます。 WARNING: /pci@7,700000: FCODE map-in doesn't match decoded register type; また、showstatus(8)コマンドを実行すると、該当するカードが搭載されたFRUに対して"Degraded"と表示される場合があります。	これらすべての出力は無視しても差し支えありません。 これらの出力を回避する場合は、okプロンプトで以下のコマンドを実行し、OpenBoot PROM環境変数diag-switch?をfalseに設定してください。 <code>setenv diag-switch? false</code>
RTIF1-090729-001	sethttps(8)コマンドで自己署名されたウェブサーバ証明書を作成する場合、指定したパラメーターの総文字数が100文字を超えるとinternal errorとなり、ウェブサーバ証明書の作成に失敗することがあります。	指定するパラメーターの総文字数を100文字以下にして、sethttps(8)コマンドを再実行してください。

表 6 XCP 1093 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-090824-001	<p>以下のどちらかの条件下では、XSCFがダウンし、XSCFのリセットが必要になったり、コンソールにエラーメッセージ (<code>ereport.chassis.software.core</code>) が出力され、コアダンプしたりすることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>adduser -u uid</code> コマンドで、ユーザーIDに65536より大きい値を指定してXSCFアカウントを作成した場合 • UIDに65536より大きい値を持つ、LDAPアカウントを使用した場合 	<p>ユーザーID (UID) の値が100から60000までのユーザーアカウントだけを使用してください。これは、XSCFコマンドの<code>adduser(8)</code>コマンドで自動的に割り当てられるUIDの範囲に相当します。</p>
RTIF1-091021-001	<p>Active Directory 有効時に、Active Directory サーバに登録されたユーザー名でXSCFにログインすると、<code>showconsolepath(8)</code> コマンドの出力結果が、ログインしたユーザー名ではなく、"proxyuser"となってしまいます。</p>	<p>有効な回避方法はありません。</p>
RTIF1-091105-001	<p><code>setad(8)</code>コマンドおよび<code>setldapssl(8)</code>コマンドで出力されるUsageに、<code>loadcert console</code>オペランドがありません。</p>	<p><code>setad(8)</code>コマンドの<code>loadcert console</code>オペランドの使用方法は、マニュアルページを参照してください。</p>
RTIF1-091109-001	<p>いったん、ドメインがDIMMやPCIに関する故障を検出すると、XSCFをリセットするたびに、検出された故障に関するエラーログが登録されてしまいます。</p>	<p>このエラーログは無視しても差し支えありません。</p>
RTIF1-091109-002	<p>XSCFにホストルートを設定できません。<code>setroute(8)</code>コマンドでネットマスクを255.255.255.255に設定すると、<code>Invalid parameter</code>となってしまいます。</p>	<p>ホストルートを設定する場合は、ネットマスク (<code>-m</code> オプション) を指定しないでください。</p>
RTIF1-091109-003	<p><code>setnameserver(8)</code>コマンドまたはXSCF Web のDNS Settingを使用して、DNSサーバまたはサーチパスを登録する場合、2つ以上の同じIPアドレス値やドメイン名を指定できます。しかし、重複したすべてのDNSサーバまたはサーチパスを削除するために、2つ以上の同じIPアドレス値やドメイン名を指定すると、<code>Invalid parameter</code>となってしまいます。</p>	<p>重複したDNSサーバまたはサーチパスを削除する場合は、該当するアドレスまたはドメイン名を1つだけ指定してください。このとき、重複したすべてのDNSサーバまたはサーチパスが削除されるため、必要に応じて、登録しなおしてください。</p>

表 6 XCP 1093 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-091109-004	<p>8Gbpsファイバーチャネルカード (SE0X7F21F、SE0X7F22F) に接続されたディスクからドメインを起動する場合、正しいデバイスパスを指定しないと、メッセージのないエラーログが登録されることがあります。</p> <p>同様に、8Gbpsファイバーチャネルカード (SE0X7F21F、SE0X7F22F) に接続されたディスクからドメインを起動する場合、ディスクの故障などが原因でドメインを起動できないときでも、エラーログが登録されないことがあります。</p>	有効な回避方法はありません。

Solaris OSに関する問題と回避方法

この章では、Solaris OSに関する情報について記載します。表 7、表 8、表 9、表 10 はご使用のSolaris OSによって発生しうる問題を示しています。

すべてのバージョンのSolaris OSに関連する問題

リリースされているすべてのバージョンのSolaris OSで発生しうる問題を、表 7に示します。

表 7 すべてのバージョンのSolaris OSに関連する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6481002	PCI-Expressカードを使用してネットワークからSolarisをインストールすると、パニックが発生することがあります。	Sun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter MMFカードまたはSun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter UTPカードを使用している場合は、これらのカードを使用してSolarisをインストールしないでください。代わりに、オンボードのGigabit Ethernetなど、他のネットワークデバイスを使用してください。
6519290	/tmp (tmpfs) に巨大なファイルや大量のファイルを作成した場合、または、復旧可能な軽度のメモリ不足が発生した場合、スワップデバイスへのI/Oが大量に発行され、システムがスローダウンすることがあります。	以下を /etc/system のファイルに追加してから、ドメインを再起動してください。 set maxfastscan=0x2000
6531036	ネットワークインストール後、network initialization failed のエラーメッセージが繰り返し表示されることがあります。	有効な回避方法はありません。このメッセージは無視しても差し支えありません。
6532215	ドメインのブート時に volfs や dscp サービスの起動が失敗することがあります。 svc:/platform/sun4u/dscp:default: Method "/lib/svc/method/svc-dscp start" failed with exit status 95. svc:/system/filesystem/volfs:default: Method or service exit timed out. Killing contract 59.	ドメイン起動後にサービスを再起動してください。 本問題を事前に回避する場合は以下を設定してください。 # svccfg -s dscp setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs
6537511	セキュリティテスト実行中にBluetoothパートナーがハングします。	アプリケーションサーバを再起動してください。

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関連する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6660168	<p>ドメイン上で <code>ubc.piowbeue-cpu error</code> が発生すると Solaris Fault Management <code>cpumem-diagnosis</code> が失敗し、FMA サービスが停止することがあります。これが発生すると、コンソールログに以下のように出力されます。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: <hostname> SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0 EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1-cb03a7dd77e3 DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled. Refer to http://sun.com/msg/FMD-8000-2K for more information. AUTO-RESPONSE: The module has been disabled. Events destined for the module will be saved for manual diagnosis. IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur. REC-ACTION: Use <code>fmdump -v -u <EVENT-ID></code> to locate the module. Use <code>fmadm reset <module></code> to reset the module.</pre>	<p>FMA サービスが停止した場合は、復旧させるために、ドメイン上で以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># svcadm clear fmd</pre> <p>その後、<code>cpumem-diagnosis</code> を再起動します。</p> <pre># fmadm restart cpumem-diagnosis</pre>
6668237	<p>DIMM を交換しても、該当した DIMM の故障がドメインから消去されません。</p>	<p>これは、パッチ 143527-01 で修正されました。</p> <p>[回避方法]</p> <p>以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># fmadm repair <i>fnri uuid</i> # fmadm rotate</pre>

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関連する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6723202	SPARC Enterprise M3000 サーバのオンボード SAS/LSI コントローラを使用してハードウェア RAID を構築するために、raidctl コマンドを使用することはできません。 raidctl コマンドはディスクやコントローラのステータスを確認したり、システム上にインストールされている PCI ホストバスアダプター (HBA) に対して使用することができます。	有効な回避方法はありません。この問題は解決する予定はありません。
6745410	システムを boot しないような kadb のオプションは、ブートプログラムで無視されてしまいます。	kadb を使用しないで、kmdb を使用してください。
6765239	複数の SAS ターゲットにつながる SAS デバイスが、オンボードの外部 SAS インターフェースに接続されている場合、正常に動作しません。SAS デバイスのターゲット ID のリストが再起動後に変更されてしまいます。	富士通製 SAS カード (SE0X7SA1F/SE0X7SA1X) を使用してください。また、この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。
6872501	XSCF からリクエストを通知しても、コアがオフラインになりません。この問題は Solaris 10 5/09、Solaris OS 10/09、またはパッチ 139555-08 が適用された Solaris 10 OS で発生します。	これは、パッチ 143359-02 で修正されました。 [回避方法] 故障しているコアを特定するために、XSCF 上で、-v オプションをつけて fmdump(8) コマンドを実行してください。特定されたら、ドメイン上で psradm(1M) コマンドを使用して、コアをオフラインにしてください。
6888928	IPMP インターフェースを通じてプローブパケットが送信されないため、IPMP インターフェースがフェイルします。この問題はパッチ 141444-09 が適用された Solaris OS と IPMP が動作している SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバで発生します。	これは、パッチ 142900-02 で修正されました。 [回避方法] probe-based failure detection を無効にしてください。

Solaris 10 10/09で解決された問題

Solaris 10 10/09で解決された問題を表 8に示します。Solaris 10 10/09より以前の製品では発生することがあります。

表 8 Solaris 10 10/09 で解決された問題

CR ID	説明	回避方法
6572827	prtdiag -vコマンドでPCIバスのタイプが間違っ て出力されます。PCI-Xリーフデバイスには「PCI」、 古いPCIデバイスには「UNKN」と表示されます。	これは、パッチ141444-09で修正されました。 [回避方法] 有効な回避方法はありません。
6800734	ドメインでdeleteboard(8)がハングアップする ことがあります。	これは、パッチ141444-09で修正されました。 有効な回避方法はありません。
6827340	コマンドエラーによって、DRとメモリパト ロールが失敗する場合があります。	これは、パッチ142344-01で修正されました。 有効な回避方法はありません。

Solaris 10 5/09で解決された問題

Solaris 10 5/09で解決された問題を表 9に示します。Solaris 10 5/09より以前の製品では発生することがあります。

表 9 Solaris 10 5/09 で解決された問題

CR ID	説明	回避方法
6588555	カーネルメモリに対してDR操作を行っている ときにXSCFをリセットすると、ドメインがパ ニックする場合があります。	これは、パッチ139555-08で修正されました。 [回避方法] DR操作中にXSCFをリセットしないでくださ い。DR操作が終了してからリセットを開始し てください。
6623226	Solarisのlockstat(1M)コマンドやdtrace lockstat providerで、システムパニックが発生 することがあります。	これは、パッチ140336-01で修正されました。 [回避方法] lockstat(1M)コマンドおよびdtrace lockstat providerを使用しないでください。

表 9 Solaris 10 5/09 で解決された問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6680733	Sun Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP (QGC)および Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF)に高負荷がかかっていると、パニックを起こす場合があります。	これは、パッチ139570-01で修正されました。 【回避方法】 可能であれば、x8レーンスロットでカードを使用してください。
6689757	Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF)に対して、XFP光トランシーバーを1つだけ、または誤った方法でインストールしている場合には、コンソールに、以下のメッセージが出力されることがあります。 The XFP optical transceiver is broken or missing.	これは、パッチ139570-01で修正されました。 【回避方法】 両方のXFP光トランシーバーがしっかりハウジング内に収まっていることを確認してください。 インテル社製XFP光トランシーバーとSun社製のXFP光トランシーバーを同じアダプター内に混在させないでください。 ポートがXFP光トランシーバーを含まない場合、あるいは使用されていないトランシーバーを含む場合は、そのポートに対してifconfig plumbを実行しないでください。
6725885	cfgadm コマンドを使用すると、SPARC Enterprise M3000 サーバでは 存在しないシステムボード (SB1 から SB15) が表示されてしまっています。	これは、パッチ 140401-01 で修正されました。 cfgadmコマンドの出力にある、SB1からSB15は無視してください。

Solaris 10 10/08で解決された問題

Solaris 10 10/08で解決された問題を表 10に示します。Solaris 10 10/08より以前の製品では発生することがあります。

表 10 Solaris 10 10/08 で解決された問題

CR ID	説明	回避方法
6608404	以下のカードを搭載した場合にホットプラグ操作を行うと、他のネットワークデバイスがフェイルすることがあります。 X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP	この問題を回避するために、このカードを搭載しないでください。

表 10 Solaris 10 10/08 で解決された問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6679370	<p>Solaris OS 起動中に、コンソールに以下のメッセージが出力される場合があります。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-75, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical ... DESC: A problem was detected in the PCI-Express subsystem. Refer to http://sun.com/msg/SUN4-8000-75 for more information. ...</pre>	<p>これは、パッチ 137137-09 で修正されました。</p> <p>注 - 137137-09 以降を適用する前に、<code>/etc/system</code> から以下の設定を削除してください。</p> <pre>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</pre> <p>[回避方法]</p> <p><code>/etc/system</code> に以下の設定を追加し、ドメインを再起動してください。</p> <pre>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</pre>
6720261	<p>ドメインで Solaris 10 5/08 が稼働している場合、システムがパニックまたはトラップを起こすことがあります。</p>	<p>これは、パッチ 137137-09 で修正されました。</p> <p>[回避方法]</p> <p>システム設定ファイルである <code>/etc/system</code> に、以下の変数を必ず設定してください。</p> <pre>set heaplp_use_stlb=0</pre> <p>そのあと、ドメインを再起動してください。</p>

ソフトウェアマニュアルの変更予定

ここでは、SPARC Enterprise M3000 サーバのソフトウェアマニュアルに関して、出版後にわかった最新のソフトウェアに関する情報やマニュアルの変更予定を示します。

なお、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF リファレンスマニュアル』に関する変更内容は、特に断りのないかぎり、マニュアルページにも適用されます。また、マニュアルページの情報よりも優先されます。

表 11 に、マニュアルの変更予定を示します。

表 11 ソフトウェアマニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド	8-16	<p>Active DirectoryおよびLDAP/SSLに関する記述が追加されます。17ページの「Active DirectoryとLDAP/SSL」を参照してください。</p> <p>8.1.10 の、2箇所 の項の手順2、3は、以下のように修正されます。</p> <p>「XSCFユニットを交換したときにXSCFファームウェアをアップデートする（XSCFユニットが1つのシステムの場合またはXSCFユニットが二重化構成のシステムで両方を交換した場合）」と、「マザーボードユニット（MBU）を交換したときXCPファームウェアをアップデートする（M3000サーバの場合）」</p> <ol style="list-style-type: none">交換した版数が以前と異なる場合、メッセージが出力されません。この場合、自動的にアップデートされません。オペレーターによる版数合わせが必要です。アップデートを行う場合、「外部媒体からXCP をアップデートする」または、「ネットワークからXCPをアップデートする」の手順を参照し、XCPのアップデートおよび版数確認を行います。

システム内の縮退メモリの識別

1. XSCFにログインします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
XSCF> showstatus
```

以下は、マザーボード上のDIMM番号0Aのメモリが縮退された例を示しています。

```
XSCF> showstatus
      MBU_A Status:Normal;
*     MEM#0A Status:Degraded;
```

